

大樋美術館・大樋ギャラリー

大樋美術館とギャラリーは、その 350 年以上に及ぶ歴史と、大樋家特有の厚みに変化があるでこぼことした茶道具類に特化している。一つ一つの大樋焼の茶盃は、ろくろは使わずに手作りの道具で造られる。そして、初代大樋長左衛門（1631-1712）が使用したものと同じ小さな釜で個別に焼かれる。

江戸時代（1603-1867）の石川県において、大樋家特有の簡素な茶道具類は、藩主前田家による茶道と芸術支援によって高評価を得た。初代大樋長左衛門（1631-1712）は、前田家から招かれ、1666 年に茶人の仙叟宗室（1622-1697）とともに京都から金沢へやって来た。

この美術館とギャラリーは、先祖から伝わる一家の邸宅に隣接して建てられている。この邸宅は、古典的な武家屋敷で、樹齢 500 年の赤松に囲まれている。この美術館では、大樋家の美術品のコレクションと並べて、十一代にわたる後継者たちが手がけた作品と工芸品を展示している。

大樋ギャラリーは、有名な建築家・隈研五によって一家の邸宅に増築するかたちで、2014 年に設計された。ここでは、現在の大樋家の後継者たち、陶冶斎（10 代大樋長左衛門）とその 11 代（年雄）、そして彼の息子・奈良祐希が手がけた作品を販売している。ギャラリーの茶室では、金沢和菓子と一緒に、本物の大樋焼の茶盃で抹茶を楽しむことができる。